

# ひょうごの 遺跡

113号

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:https://www.hyogo-ctc.or.jp/

## 令和7年度 発掘調査成果速報

～ポツンと新遺跡・微高地を狙った地域開発～

みかげなかみぞすじ  
御蔭中溝筋遺跡

～江戸時代生野鉦山の製錬施設を発見！～

いくのこうざん  
いくのだいかんしよあとかんれん  
生野代官所跡関連遺跡

～大津茂川下流域の集落遺跡～

おおつも  
しもおおだおがわ  
下太田小川遺跡

## 特集！新技術！

新たな高所撮影の試み  
- たおれん棒の導入 -

## ひょうごの掘り出しもの

### 第11回

夢にまで見たコンパス文器台の姿

## ～ポツンと新遺跡・微高地を狙った地域開発～ 御蔭中溝筋遺跡（姫路市豊富町豊富）

朝来市から姫路市へと流れる市川沿いに、福崎町から姫路市豊富町に氾濫平野が広がります（写真①）。その南端の市川東岸部ではこれまでほとんど遺跡が知られていませんでした。県道大柳仁豊野線道路改良事業に伴う試掘調査で、御蔭中溝筋遺跡の存在が明らかになりました。今回の本調査で、古墳時代から中世まで、断続的に人々



写真① 調査区遠景（黄枠部）（南東から）



写真② 古墳時代の竪穴建物（最上層）



写真③ 竪穴建物で見つかった2基のカマド

が居住したことが明らかになりました。

### 古墳時代後期の竪穴建物

四角形の竪穴建物を検出しました（写真②）。出土した須恵器から、古墳時代後期のものであることが分かります。1辺5m程度の竪穴建物が同じ個所で複数回建て替えられていました。

竪穴建物にはカマドが設けられていました（写真③）。2基のカマドが位置をずらして検出されたことから、建物の建て替えが行われたと考えられます。1基のカマドの焚口部では土師器の甕1個体がそのままつぶれた状態で出土しました（写真④）。

その竪穴建物の下で、最下層の竪穴建物を検出しました（写真⑤）。埋土に多量の炭と焼土が含まれていたことから、火事によって廃絶したものと考えられます。



写真④ カマドの焚口部で出土した甕



写真⑤ 竪穴建物（最下層）の炭と焼土

## 平安時代の<sup>りよくゆう</sup>緑釉陶器

今回の発掘調査では平安時代の遺物と遺構はあまり見つかりませんでした。小穴の中から1点の緑釉陶器の破片が出土しました(写真⑥)。緑釉陶器は緑色に発色する釉薬を塗った土器で、須恵器や土師器といった日用雑器とは異なる、特別な器だったと考えられています。今回、確認できませんでしたが、調査地周辺に重要な施設があった可能性がうかがえます。

## 中世の<sup>ほったてばしら</sup>掘立柱建物

1棟の掘立柱建物と複数の溝などが見つかりました。掘立柱建物は直径0.5m程の柱穴をもつ、2間×3間以上の側柱建物です(写真⑦)。建物は調査範囲外に伸びており規模は不明です。柱穴は礫で構成される固い地層を掘り抜いており、労力をかけて建てられたことがうかがわれます。この他に、緩やかに蛇行する溝などの遺構が見つかりました(写真⑧・⑨)。



写真⑥ 小穴から出土した緑釉陶器



写真⑦ 中世の掘立柱建物

## 微高地を狙った地域開発

調査地に立つと、御蔭中溝筋遺跡が南北に伸びる、ごく緩やかな高まりに立地することが分かります。北から南に流れる市川は長い時間の中で流路を変えていたことが知られており、市川が運んだ土砂によって南北に伸びる微高地が形成されたと考えられます。この微高地上に遺跡が広がるものと考えられます。

御蔭中溝筋遺跡の周辺にはこれまで遺跡が確認されていませんでした。おそらく昔の人々は水に浸かりにくい微高地を狙って、ピンポイントに小さな集落を形成し、周囲を開発したのでしょう。

新たに発見された遺跡から、複数の時代にわたる人々の生活の痕跡が発見されました。まだ見つからない遺跡は各地に眠っていると考えられ、そこから歴史を変えるような事実が明らかになることもあるかもしれません。(調査第2課 三好元樹)



写真⑧ 中世の溝



写真⑨ 中世の溝と周囲の小穴

いくのこうざん  
～江戸時代生野鉱山の製錬施設を発見！～

いくのだいがんしょあととかんれん  
生野代官所跡関連遺跡（朝来市生野町奥銀谷）  
おくがなや



動画はこちらから

生野鉱山から銀を運んだ馬車道（銀の馬車道）が開通して今年で150年になります。今回の調査地点はこの生野鉱山金香瀬坑口の近く、市川のほとりに立地しています（写真①）。国道429号線の交差点改良事業にともない発掘調査を行いました。



写真① 調査地遠景（黄梓部）（西から：奥が生野鉱山）

今回の発掘調査では、鉱山に関わる遺構として製錬炉（写真②）11基や水槽を検出しました。銀の馬車道開通より前の江戸時代に、生野鉱山の近くで行われた作業はどのようなものだったのでしょくか。ここでは、主要な調査成果について紹介します。

鉱山でのお仕事

生野鉱山で①取り出した鉱石は、②叩き石で粉碎し、③鉱物と石の重さの違いを活かして水中で選び分け、④製錬炉の中で溶かして銅や銀を抽出していきます。今回の調査では①に関わる遺物、②～④に関わる遺物や遺構を確認しました（図1）。

①に関わる遺物は煙管やサザエが出土しています。絵図のように、坑道の中などで使用されたものと考えられます。

②に関わる遺物として、地面に据えられた叩き石や叩き石、また鉱山臼があります。

③に関わる遺構として、水槽があります。絵図のように水槽の中で、汰り碗を使い



写真② 製錬炉（SX308）



①掘る



煙管



②割る



叩き石

要石



③選び分ける



水槽

(SK201)



④溶かす



製錬炉

(SX305)

図1 作業工程

（朝来市生野書院所蔵『生野銀山絵巻』より）  
重たいもの（鉱物を含む石）と軽いもの（不要な石）とに分けていました。

④に関わる製錬炉では、不純物（硫黄など）を取り出し、鉱物の純度を高めるために、高温で溶かしていました。炉内を高温にするため除湿をする必要があり、底部に粘土を貼るなどの工夫がなされています。

④の工程で生まれた不純物の塊をカラミこうさい（鉾滓）といいます。今回の調査ではカラミが大量に出土しました（写真③）。



写真③ 大量に出土したカラミ

### 江戸時代の製錬施設

江戸時代前期（第1期）には製錬炉のほか、作業場としての土間（SX508）があります（写真④）。南蛮吹なんばんぶきと呼ばれる製錬法が伝わった時期にあたり、中近世をつなぐ時期の製錬法を知る上で重要な資料です。

出土遺物には日常雑器とは異なる唐津焼からつやきの天目茶碗てんもくぢやわんや中国製の青花碗せいかわんが含まれ、富裕な商人あるいは武士階級の所持品であると考えられます（写真⑤）。

製錬炉 11 基のうち江戸時代前期（第1期）に1基、中期～後期に2基（第2期）、3基（第3期）、5基（第4期）があります。



写真④ 江戸時代前期の土間 (SX508)



写真⑤ 出土した唐津焼（右为天目茶碗）

場所は中央（第1期）→北側（第2・3期）→北半分（第4期）の変遷があり、水を抜く水路を設置するなどして、防湿のための工夫をおこなっていました（図2）。

生野鉾山周辺は江戸時代後期の絵図が残されており、調査地点周辺には製錬施設が描かれています。今回の調査地点は、こうした製錬施設の1つと考えられます。

### 明治時代の芝居小屋・料亭

製錬施設が下流の猪野いのの々に集約された明治時代（第5期）には、調査区北側に建物跡、南側には便槽べんそう（写真⑥）や石垣があり写真資料から芝居小屋と料亭があったと考えられます。（調査第1課 椿野智之）

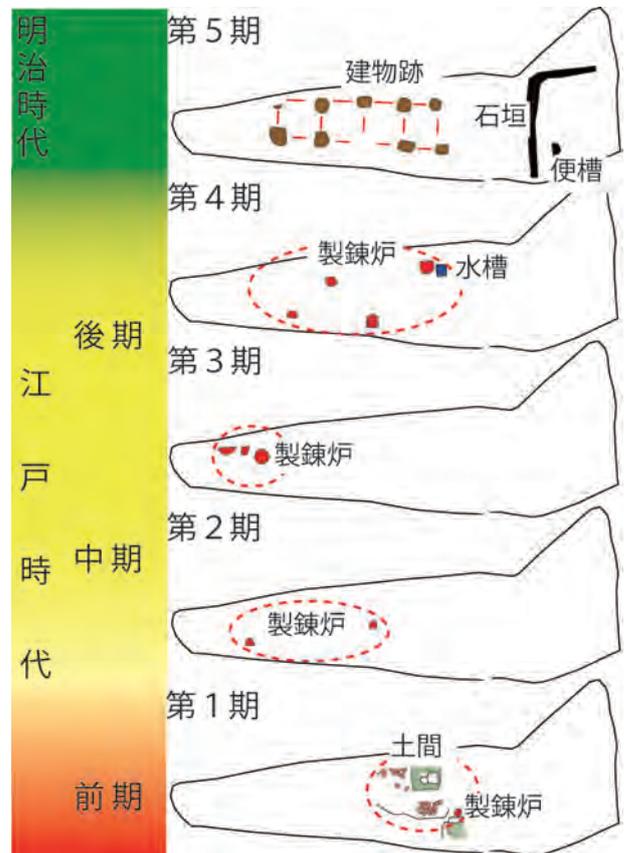


図2 主な遺構の変遷（左が北）



写真⑥ 便槽

# おおつも 大津茂川下流域の集落遺跡

## しもおだおがわ 下太田小川遺跡 (姫路市勝原区下太田)

下太田小川遺跡は大津茂川東岸の氾濫平野に位置します(写真①)。今回、県道<sup>おおえじまたいしせん</sup>大江島太子線交差点改良事業に伴い、道路沿いに1～3区の調査区を設定して発掘調査を行いました。

1区では、東西及び北西方向に沿う2種類の溝などを検出しており、北西方向の溝SD08(写真②)からは弥生土器が出土しました。

また、北半部の谷状の落ち込みからは、弥生時代前期の土器片が出土しています。

2区では、溝、土坑<sup>どこう</sup>、落ち込み、柱列などを検出しました。このうち、落ち込みSX059(写真③)からは、中世の須恵器や土師器、古代の瓦片などが多数出土しました。鞆<sup>ふいご</sup>の羽口や砥石<sup>はぐち</sup>といった生産関連遺物も出土しており、周辺に製鉄関連の施設が

あった可能性があります。

また、近くでは複数の柱列(写真④)を検出しており、付近に建物を伴う集落が存在したと考えられます。

3区では、北半部で東西方向に沿う多数の溝や弥生時代中期の土坑などを検出しました。

下太田小川遺跡周辺では、縄文時代中期及び弥生時代前期からの集落が展開する<sup>よろ</sup>丁・柳ヶ瀬<sup>やながせ</sup>遺跡や、7世紀半ばの創建とされる下太田廃寺などが立地します。出土した遺物の多くがこれら近接する遺跡と同時期のものを含むことから、各時代に展開した集落・寺院と深く関連する遺跡であると判断でき、当地域での人々の動向を示す重要な成果といえます。

(調査第2課 垣内 翼)



写真① 調査地遠景(黄枠部)(南から)



写真③ 2区 SX059



写真② 1区 SD08・09



写真④ 2区 柱列

## 新たな高所撮影の試み - たおれん棒の導入 -

現在の発掘調査における高所（全景）撮影には、写真撮影用足場材や高所作業車といった方法で実施されています。また、当センターでは近年、伸縮可能なポールを用いて撮影する技術を導入しており、一人でも比較的簡単に遺構の個別撮影や高所撮影をすることが可能で、各現場でも積極的に利用しています（写真①）。

しかし、現在使用しているポールは5 m程度の高さまでしか上げられないため、撮影範囲が限られていました。これを解決する方法として今回、「たおれん棒」という新たな撮影機材を導入しました（写真②）。

紹介する「たおれん棒」とは、(株)空撮技研が開発した、最長約11 mまでの伸縮可能な長尺ロッドの先端にプロペラ風力を備えたパワーユニットを取り付けたもの

で、傾きに対しての推力で正立させることができます。従来、橋梁といった高所部材の撮影点検で利用されているものですが、埋蔵文化財の発掘調査でも利用できるのではないかと考えました。

撮影の利点は、何といたっても約11 mでの撮影が少人数でも可能になるという点です。これは足場や高所作業車での撮影高とほぼ変わらないため、従来よりも設置や移動が簡易に高所撮影が実施できるようになります（写真③）。また、ドローンに比べて資格が必要なく、撮影場所の制限なく立てることができます。カメラ機材やコスト面などの問題もありますが、今後の発掘調査を担う新たな技術として、様々な場所で活用しています。

（調査第2課 垣内翼）



写真① 従来のポールを用いた撮影状況



写真③ 高所撮影（「たおれん棒」で撮影）



写真② 「たおれん棒」での撮影状況

# ひょうごの 掘り出しもの

～第11回～ 夢にまで見たコンパス文器台の姿 きだい

(上郡町 竹万宮ノ前遺跡) ちくまみやのまえ

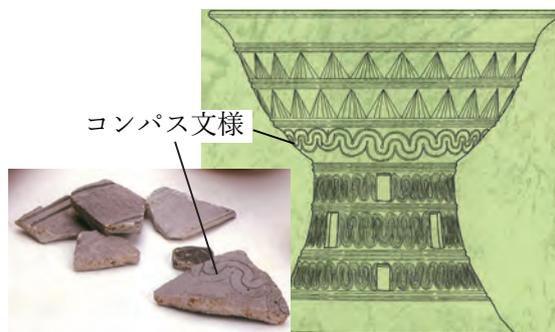
今からもう四半世紀前、体験発掘に参加した小学生が、当時国内6例目のコンパス文様の刻まれた須恵器片を発見しました。

コンパス文様は韓国に起源がありますが、実は韓国でコンパス文が施文されているのは陶質土器の甕ろがたと炉形器台たかつきに限られ、図面のようなコンパス文の施された高环形器台は日本でしか見つからないのです。

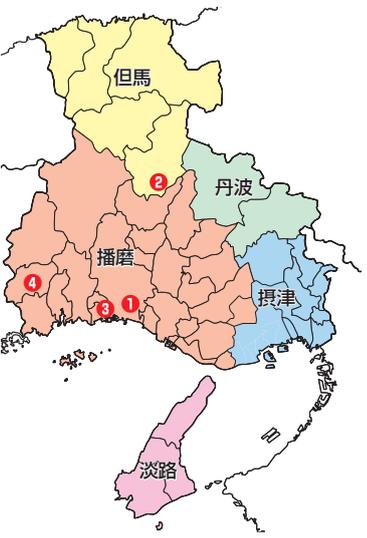
しかも全体の形状を復元した例は当時、他で1例のみ。どうしても全体形状を復元してみたくなりましたが、竹万宮ノ前遺跡で見つかった破片はわずか6片。南東4kmほどの蟻無山1号墳ありなしやま(赤穂市)から出土した似た文様構成の器台口縁部も援用してチャレンジしました。

そして完成した復元図は報告書に、しかも表紙に載せてしまいました。わずかな破片から全体形を復元した大胆かつ無謀な取り組みで、自分が上司だったら全力で止めるにちがいません。

時は流れて18年後、なんとコンパス文器台がほぼ完全な形で出土したのです(姫路市前田遺跡、ひょうごの遺跡第101号)。初めて図上復元ではない、古墳時代中期当時の形に接合して組み上がり、人類が1500年ぶりにご対面がかなったのです。思いがけず、竹万宮ノ前遺跡出土破片からの復元が概ね正解だったことに驚きつつ、現在前田遺跡の報告書作成作業に勤しんでおります。(調査第1課 上田健太郎)



出土したコンパス文器台破片と想定復元図



### 本誌に掲載の遺跡

- ① 御蔭中溝筋遺跡  
姫路市豊富町豊富
- ② 生野代官所跡関連遺跡  
朝来市生野町奥銀谷
- ③ 下太田小川遺跡  
姫路市勝原区下太田
- ④ 竹万宮ノ前遺跡  
赤穂郡上郡町竹万

冬季企画展

## 但馬国出石郡家と袴狭遺跡

1/17 土 — 3/15 日



兵庫県立考古博物館  
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

## 編集後記

今回ご紹介した3遺跡は、連日の暑さと格闘し掘った遺跡たちです。特集では「たおれん棒」を取り上げました。自立する棒は今後も、現場での撮影を助けてくれるでしょう。二次元コードから動画もぜひ、お楽しみください！(調査第1課 椿野智之)

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

[https://www.hyogo-kouhaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category\\_id=3](https://www.hyogo-kouhaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3)

<https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/>

1～82号

考古博物館HP



83号～

CTC HP



公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター  
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development